

資 料 編

# 平成14年度「エル・ネット高度化推進事業」報告書

平成15年3月

高等教育情報化推進協議会

## 1. 趣 旨

衛星通信を利用した教育情報通信ネットワークを利用した遠隔大学院及び遠隔大学公開講座（エル・ネット「オープンカレッジ」）は、平成11年度、12年度、13年度の3か年にわたり、延べ100大学以上の公開講座を放送し、送信体制受信体制について調査研究を実施し、所定の成果を得た。

平成14年度は、遠隔大学公開講座を継続的に実施していくための実践的な調査研究を実施するとともに、衛星通信と地上回線とを複合的に活用した効率的な遠隔教育システムの開発など、エル・ネットの高度化に資する調査研究を実施した。

## 2. 委託期間 平成14年5月7日～平成15年3月31日

## 3. 事業の内容等

### （1）高等教育情報化推進協議会

推進協議会を組織し、運営・実施を円滑に行うため、以下の委員会を設置した。

#### a) 推進委員会

運営・実施を円滑に行うため、学識経験者、講座提供機関の代表等からなる推進委員会を設置し、実施内容、実施方法、運用体制、今後の推進方策等について協議した。

#### b) モデル事業実施委員会

推進委員会委員・専門委員からなり、各モデル地域の調査研究内容について、企画調整するとともに、モデル事業全体について研究を行った。

#### c) モデル事業連絡委員会

遠隔大学公開講座企画運営に関する実践的調査研究をすすめるため、モデル地域を指定し、より効果的な講座運営の方途を探る。この事業を推進するため、講座開講機関等の担当者、社会教育施設・団体の講座実務者、事務担当者等からなる委員会を設置し、講座運営方法等について調査研究した。

#### d) 事務連絡会議

大学独自収録を実施する大学の講座講師、もしくは大学事務担当者が収録に際して、事

前に準備のために協議会担当者と打合せを行った。

## (2) 事業の内容等

講座は3期に分けて放送した。

第1期 <平成12・13年度再放送> 2チャンネル

5月7日～8月3日／13週52講義

火・木・金曜日午前1講義、土曜日午後1講義

第2期 <リクエスト講座> 2チャンネル

8月6日～9月28日／8週32講義

火・木・金曜日午前1講義、土曜日午後1講義

第3期 <平成14年度新規収録放送> 2チャンネル

10月1日～3月1日／20週117講義

火・水・木・金曜日午前1講義、土曜日午後2講義

これまで、放送した公開講座の中から、リクエストの多かったものを放送するなど、受講者のニーズにあった放送を行うとともに、新規収録放送についてはこれまでの90分1コマ1講義の形式から変更して、前半50分とし、10分休憩をはさんで後半50分を1講義として、受講しやすい番組構成にした。

受講体制については、昨年度まで7モデル地域を指定して、地域における遠隔大学公開講座の有効活用に関する調査研究を実施したが、今年度は10地域を指定し、調査研究を実施した。

また、受講体制に関する調査研究に加え、大学や視聴覚センター等の社会教育施設とが連携しての地方V S A T局からの発信や、衛星通信による映像と双方向性を確保する地上回線の融合などの実践的な調査研究を実施した。

## 4. 事業の実施経過

上記内容について、実施するなかで、新規収録放送においてモデル事業関連を含め、ライブ放送を9講義実施した。複数大学による連携講座や、実習を含む双方向講座など新たな取り組みを行った。また、番組評価委員会を組織し、外部有識者による番組評価を実施した。

一方、衛星通信と地上回線との融合的な活用の視点から、新しい広報活動の一環として、講座番組に連動して、e-learningシステムを使い講座の予告編、課題、チェックシートなどのコンテンツ配信を10講義で展開した。

さらに、インターネットユーザーへの受講者モニター、エル・ネットコンテンツ配信システム用講座コンテンツとして、本年度放送講座の中から、デジタル化、モジュール化して提供した。

## 5. 事業の成果と今後の課題

上記事業を実施した結果、番組評価やモニターなど、これまでとは異なった観点からの提供講座に関する知見を得た。また、e-learning等インターネットによる情報提供により、利用者ニーズに迫ることができた。

今後の課題として、エル・ネット「オープンカレッジ」のコンソーシアム化をふまえたモデル事業を展開していくことが挙げられる。具体的には、受信体制を確立するための拠点づくり、番組制作についてボランティアやコーディネータの活用とその組織化、利用者ニーズの把握とその組織化である。

# 平成14年度「エル・ネット高度化推進事業」計画書

平成14年4月

高等教育情報化推進協議会

## 1. 趣 旨

衛星通信を利用した教育情報通信ネットワークを利用した遠隔大学院及び遠隔大学公開講座（エル・ネット「オープンカレッジ」）は、平成11年度、12年度、13年度の3か年にわたり、延べ100大学以上の公開講座を放送し、送信体制受信体制について調査研究を実施し、所定の成果を得た。

平成14年度は、遠隔大学公開講座を継続的に実施していくための実践的な調査研究を実施するとともに、衛星通信と地上回線とを複合的に活用した効率的な遠隔教育システムの開発など、エル・ネットの高度化に資する調査研究を実施する。

## 2. 事業の実施時期

委託を受けた日から平成15年3月31日

## 3. 事業の実施スケジュール

- |        |                                                                                                                         |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5月～9月  | 参加大学の決定、実施大学への説明会、再放送の実施、大学公開講座の収録、テキスト作成、広報活動（ポスター・パンフレット、ニュースレター、メールマガジン、ストーリーミング等）、協議会・推進委員会、事務連絡会議、モデル事業実施・連絡委員会の開催 |
| 10月～2月 | 大学公開講座の放送、大学公開講座の収録、テキスト作成、広報活動（ニュースレター、メールマガジン）、事務連絡会議、協議会・推進委員会、受講者モニター、コンテンツ配信システム用講座コンテンツ作成                         |
| 3月     | 協議会・推進委員会、モデル事業実施・連絡委員会の開催、報告書作成                                                                                        |

## 4. 事業内容等

### （1）高等教育情報化推進協議会

推進協議会を組織し、運営・実施を円滑に行うため、以下の委員会を設置する。（組織図：別紙1、名簿：別紙2）

#### a) 推進委員会

運営・実施を円滑に行うため、学識経験者、講座提供機関の代表等からなる推進委員会を設置し、実施内容、実施方法、運用体制、今後の推進方策等について協議する。

b) モデル事業実施委員会

推進委員会委員・専門委員からなり、各モデル地域の調査研究内容について、企画調整するとともに、モデル事業全体について研究を行う。

c) モデル事業連絡委員会

遠隔大学公開講座企画運営に関しての実践的調査研究をすすめるため、モデル地域を指定し、より効果的な講座運営の方途を探る。この事業を推進するため、講座開講機関等の担当者、社会教育施設・団体の講座実務者、事務担当者等からなる委員会を設置し、講座運営方法等について調査研究する。

d) 事務連絡会議

講座講師もしくは、大学事務担当者が収録に際して、事前に準備のために協議会担当者 と打合せを行う。

## (2) 事業の内容等

講座は3期に分けて放送する。

第1期 <平成12・13年度再放送> 2チャンネル

5月7日～8月3日/14大学18講座52講義

火・木・金曜日午前1コマ、土曜日午後1コマ

第2期 <リクエスト講座> 2チャンネル

8月6日～9月28日/12大学12講座32講義

火・木・金曜日午前1コマ、土曜日午後1コマ

第3期 <平成14年度新規収録放送> 2チャンネル

10月1日～3月1日/120講義

火・水・木・金曜日午前2コマ、土曜日午後4コマ

これまで、放送した公開講座の中から、リクエストの多かったものを放送するなど、受講者のニーズにあった放送を行うとともに、新規収録放送についてはこれまでの90分1コマ1講義の形式から変更して、50分を1コマとし、10分休憩をはさんだ2コマを1講義として、受講しやすい番組構成にする。

受講体制については、昨年度まで7モデル地域を指定して、地域における遠隔大学公開講座の有効活用に関する調査研究を実施したが、今年度は10地域を指定し、調査研究を実施する。

また、受講体制に関する調査研究に加え、大学や視聴覚センター等の社会教育施設とが連携しての地方V S A T局からの発信や、衛星通信による映像と双方向性を確保する地上回線の融合などの実践的な調査研究を実施する。

事務局員は協議会委員より2名選出する。

## 5. 高等教育情報化推進協議会の事務局

### (1) 所在地

東京都港区虎ノ門1-17-1 視聴覚ビル(財)日本視聴覚教育協会内

### (2) 文部科学省との連絡担当者の氏名

高等教育情報化推進協議会委員 岡部守男

### (3) 電話番号

03-3591-2186

# エル・ネット「オープンカレッジ」

## 番組のための著作権契約について

平成14年7月

文部科学省学習情報政策課

放送番組を制作する上で、著作権の契約は不可欠なものです。エル・ネットでは、著作権の契約をより簡単にできるよう独自の著作権契約システムを作成しております。このシステムでは番組を利用できる範囲により5段階の「著作権契約レベル」を設定していますが、「オープンカレッジ」については「A」または「AB」の2段階とすることとしています〔別紙1〕。受信局に対しては、著作権契約レベルに応じた取り扱いを徹底するとともに、「番組スケジュール表」及び「放送番組」の前後に表示しています。次の事項に留意の上、遺漏のないようにお願いします。

### 【講師等との契約】

1. エル・ネット「オープンカレッジ」の番組において、大学等の公開講座を放送するためには、**講師等と著作権契約をすることが必要です**。

(座談会・パネルディスカッション等を行う場合には、すべての参加者、司会者、パネリスト等を含みます。)

2. 番組をより多くの方に視聴していただくために、著作権契約レベルはできる限り貸し出しが可能な「AB」でお願いします。ただし、講師の了承が得られない場合や、ひとつの番組に複数の講師等がいて、講師ごとに了承していただけるレベル「A」と「AB」が混在する場合は、番組全体の著作権契約レベルは「A」となります。

3. 講師等との契約は、「承諾書」〔別紙2〕によりますが、「A」及び「AB」の具体的な内容(受信局で行える行為)については、承諾書ではなく〔別紙1〕の図を使って説明してください。

受信局は、著作権契約レベルの範囲内で放送番組を活用した事業を行います



## 【既存の著作物の利用】

講師等が著作権・著作隣接権を有するもの以外の既存の著作物、実演、録音物、放送番組、有線放送番組を番組中で利用する場合は、それぞれについてすべての権利者と契約する必要があります。

そこでエル・ネット「オープンカレッジ」においては、既存の著作物等を許諾無しで利用できる「例外」のひとつである「引用」の範囲内で利用することとしています。

既存の著作物を利用する場合は「引用」の範囲内にとどめてください。[別紙3参照]。(権利者と契約する必要がある場合は、「承諾書 [別紙2]」を準用して下さい。)

音楽の使用は原則できません。多くの音楽は日本音楽著作権協会 (JASRAC) によって集中管理されており、エル・ネットで使うことができません。ただし、いわゆる「著作権フリー」の音楽・効果音等は使用できます。詳しくは「著作権システムの手引」13ページをご覧ください。

## 【質疑応答の取扱い】

受信会場から、双方向衛星通信、ファックス、テレビ会議システム等により質疑応答を行う場合 (送信会場における質疑応答を含む) は、下記の取扱いをするなどして、質疑応答がエル・ネットで放送され2次利用される旨を参加者に対し、周知徹底してください。

### 1. 会場で参加者から直接質問が想定される場合の対応について

以下のような形で事前に参加者に対し、エル・ネットでの放送があることを伝えて下さい。

- (1) 受講者を募集するポスター、申込用紙、受講証等に下記内容を明記。

本講座は、エル・ネットで全国に放送します (質疑応答を含む)

- (2) 会場の入口など参加者の目に入りやすい場所に、[別紙5] を用いた説明ポスター等を貼る。  
(3) 講座開講前に、参加者に対して [別紙5] を提示 (受講者に資料配付、またはスクリーンに上映) し、司会者等から口頭でも説明。

本講座は、エル・ネットで全国に放送します。質疑応答の様子も放送しますので、あらかじめご了承ください。放送された映像と音声は、受信局で次のように利用されます。( [別紙5] に従って説明 )

- (4) 質疑応答の前に再度 [別紙5] を提示し、司会者等から説明。

それでは質疑応答を行います。この様子はエル・ネットで全国に放送します。放送された映像と音声は、受信局で次のように利用されます。  
( [別紙5] に従って説明 )

※ 撮影の了承を得られない人については、カメラの後方など、映らない場所に座ってもらうてください。

### 2. ファックスで質問を受けつける場合

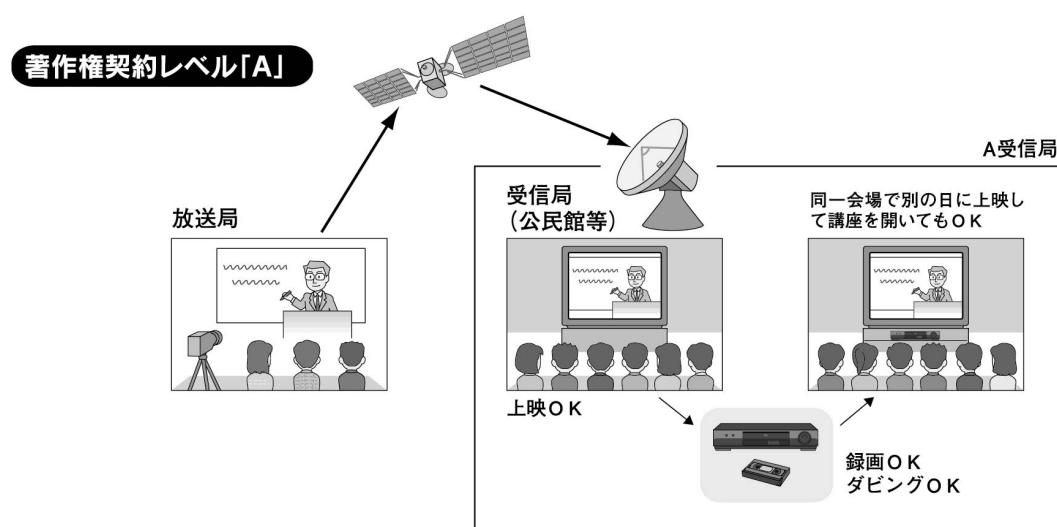
質問票には [別紙4] に記載されているような注意書きを入れてください。

## 著作権レベル「A」

全国の受信局（V S A T局を含む）で、放送番組を視聴・録画・複製・上映できます。  
 （「非営利」の「学校教育」または「社会教育」を目的とした利用に限る）

（具体的には…）

- ①受信局の会場で、番組を上映することができます。
- ②受信局で、番組を録画することができます。
- ③録画した番組を、ダビング（複製）することができます。
- ④受信局で、番組を録画したテープを使用して講座を開催し、番組を上映することができます。

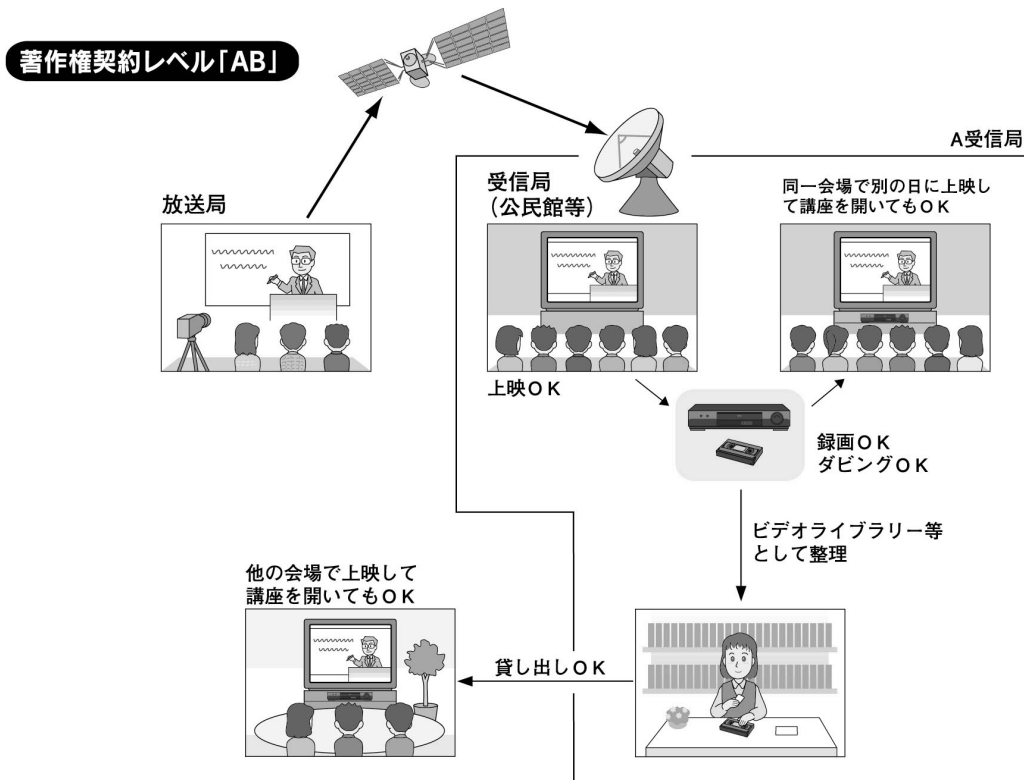


## 著作権レベル「A B」

全国の受信局（V S A T局を含む）で、放送番組を視聴・録画・複製・貸出・上映できます。  
（「非営利」の「学校教育」または「社会教育」を目的とした利用に限る）

（具体的には…）

- ①受信局の会場で、番組を上映することができます。
- ②受信局で、番組を録画することができます。
- ③録画した番組を、ダビング（複製）することができます。
- ④受信局で、番組を録画したテープを使用して講座を開催し、番組を上映することができます。
  - 番組を録画したテープを貸し出すことができます。
  - 受信局から借りた録画テープを使用して、他の場所で講座を開催し、番組を上映することができます。



## 承 諾 書

私が著作権を有する著作物である \_\_\_\_\_ (番組名を記入) \_\_\_\_\_ に関する講義及び関係資料を「エル・ネット（教育情報衛星通信ネットワーク）」の「オープンカレッジ」事業のため、(送信局名を記入。但し、文部科学省以外のV S A T局から放送する場合には再放送を考慮し、「または文部科学省」と記載してください) から送信するに当たり、下記「A」の行為を反復して行うことを送信局及びすべての受信局に対して許諾するとともに、下記「B」の利用行為を反復しておこなうこと（×印を付した場合は除く）をそれぞれの行為を行う人に対して許諾します。

ただし、すべての利用は非営利の学校教育又は社会教育を目的とするものに限りします。

なお、この許諾は、私の同一性保持権及び氏名表示権に影響を及ぼすものではありません。

同一性保持権	…	無断で著作物を改変されない権利
氏名表示権	…	無断で名前の表示の仕方を変えられない権利

### A 送信局による送信利用等

送信局において、複製し、公衆送信（送信可能化を含む。以下同じ。）し、公に上映するとともに、受信局において、公に伝達し、複製し、公に上映すること。

### B 送信局・受信局における「ビデオ貸し出し」等

送信局及び受信局において、複製物を公衆に貸与するとともに、貸与を受けた者が公に上映すること。

※ 期限を設ける場合  
この許諾は、平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月末まで有効とします。

\_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

住所 \_\_\_\_\_

所属・職名 \_\_\_\_\_

署名 \_\_\_\_\_

### 承諾書の書き方

講師のレベル「A B」を希望する場合は「日付、住所、職名、署名」を記入して下さい。

「A」のみを希望する場合は、「B」の部分に「×」をつけた上で日付以下を記入して下さい。

## エル・ネット放送番組における既存著作物の「引用」について

既存の著作物等を番組内で使用する場合、著作権者の承諾を得ていただく（契約する）ことが原則ですが、著作権法第32条に示されている範囲内であれば、「引用」として利用することが可能です。以下にエル・ネットにおける指針を示しますので、これに基づき、適切な番組制作を行うようお願いいたします。

### （１）「引用」ができる場合にかかる法律上・判例上の原因

- ① 「引用」を行う「必然性」があること
- ② 「引用部分」が明確になっていること
- ③ 「引用部分」とそれ以外の部分の「主従関係」が明確になっていること
- ④ 「出所の明示」が行われていること
- ⑤ 批評、研究、報道その他の「正当な目的」のために引用されていること
- ⑥ 「公正な慣行」に反するものでないこと

### （２）「エル・ネット」放送番組での「引用」にかかる注意点

- ① 「引用の範囲」は「必然性」がある部分のみとしてください。  
既存の「俳句」を引用する場合などのどうしても必要な場合を除き、原則として「全部の引用」は避けてください。
- ② 口頭またはテロップにより、「引用」である旨を明示するとともに、「出所の明示」を必ず行ってください（次頁の「引用の際の明示例について」を参照）。
- ③ 引用できる著作物の種類は、論文、図表、写真、音楽、ビデオなどすべてのものを含みますが、いずれの場合も上記（１）の原則を満たしていることが必要です。
- ④ 法律により「引用」が可能とされているのは、あくまでも「例外」であるということをよく認識し、適切な対応をお願いします。

## 引用の際の明示例について

番組中に著作物等を引用する場合は、下記の例に従い、「出所を資料に明示」もしくは「講義の最後に一覧表にして表示」してください。

●書籍から引用

『○○○○の世界』○○○○著 ○○○出版社

●雑誌に記載されている図表を引用

『月刊○○○○』○○○出版社

図表「○○○○に関する調査結果」○○○調べ

●美術写真を引用

写真「○○○○の肖像」『○○○全集』○○○社

●一般に配布されているパンフレットより引用

パンフレット「○○○へようこそ」○○○社

●新聞より引用

「○○○○」○○新聞 ○○○○年○月○日付

図表「○○○○に関する調査結果」○○○調べ

●ホームページより引用

<http://www.○○○○○○.co.jp>

## ファクス質問用紙

【著作権契約レベル：Aの場合】

☆☆☆ ご意見・ご質問をお寄せください ☆☆☆

(記入上のお願い)

- 1 質問は、簡潔、明瞭にしてください。
- 2 文字は、はっきりと大きく、丁寧に書いてください。

----- ----- ----- ----- ----- ----- -----
-------------------------------------------------------------

私の行う上記の質問が、エル・ネットを通じて放送され、受信局において公に上映されること、  
また、受信局において録画・複製されたものが反復して上映されることに同意します。

会場名 \_\_\_\_\_

氏 名 \_\_\_\_\_

F A X 送付先 / \_\_\_\_\_

## ファクス質問用紙

【著作権契約レベル：A Bの場合】

☆☆☆ ご意見・ご質問をお寄せください ☆☆☆

(記入上のお願い)

- 1 質問は、簡潔、明瞭にしてください。
- 2 文字は、はっきりと大きく、丁寧に書いてください。

----- ----- ----- ----- ----- ----- -----
-------------------------------------------------------------

私の行う上記の質問が、エル・ネットを通じて放送され、受信局において公に上映されること、また、受信局において録画・複製されたものが反復して上映されること、さらに録画物が公衆に貸与され、貸与を受けた者が公に上映することと、これらの行為が反復して行われることに同意します。

会場名 \_\_\_\_\_

氏 名 \_\_\_\_\_

F A X 送付先 / \_\_\_\_\_



(会場配布用資料の例)

【著作権レベルAの場合】(両面印刷版)

参加者の皆様へ

本日の講義は、後日、「エル・ネット」で放送されます。

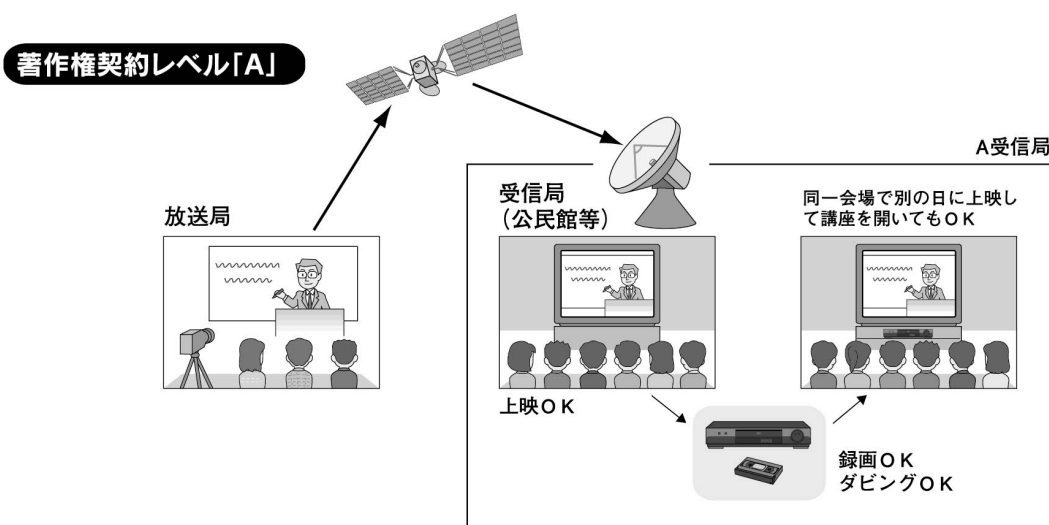
これから行われる質疑応答の様相も放送される予定です。

番組は全国に放送されるとともに、受信局において録画され、以下のように利用されますので、その旨了承した上で質問をして下さい。

また、撮影されたくない方は、カメラの範囲外の席へ移動していただくようお願いします。(会場の係員が御案内します or 別途記入)

本日の講義(質疑応答を含む)は受信局において以下のように利用されます。

- ① 受信局の会場で、番組として上映されます。
- ② 受信局で、番組を録画することができます。
- ③ 録画した番組を、ダビング(複製)することができます。
- ④ 受信局で、番組を録画したテープを使用して講座を開催し、番組を上映することができます。



本日の講義（質疑応答も含む）は〇〇年〇〇月〇〇日（〇）〇〇時～〇〇時に「エル・ネット」2チャンネルで放送される予定です。

番組をご覧になりたい方は、下記ホームページでお近くの受信局を確認の上、受信局に直接お問い合わせください。

【エル・ネットホームページ】

<http://www.mext.go.jp/a-menu/shougai/elnet/index.htm>

【オープンカレッジホームページ】

<http://www.opencol.gr.jp>

【事務局連絡先】

〇〇〇〇-〇〇〇〇

エル・ネットとは…

文部科学省が推進する、衛星通信を活用して、教育、科学技術・学術、スポーツ、文化に関する情報を、直接全国に発信する教育情報衛星通信ネットワークです。受信局は、全国の社会教育施設、学校等約2,000箇所に設置されており、教育を取り巻く諸課題を解決する際の一手段として、教育関係者や学習者をはじめ多くの方々に利用されています。



(出典：○○○○○○○○)

- ・巻末に**参考文献**をおつけください。

講義の中で引用された文献について

著者（编者）、書名（論文名、雑誌名、巻数）、発行所、発行年の順にご記入ください。

受講者が学習する上で参考になる文献についても、上記に準じて記入してください。

◆備考

- ・ わかりやすい平易な文章を心がけるようお願いします。
- ・ 文体は「・・・だ。・・・である」調でお願いします。用字、用語は「常用漢字、現代かなづかい」にてお願いします。
- ・ 講座の中で、OHCにより図、表、写真等を提示することは可能ですが、通常のテレビ画面に投影されるため、文字の判読や細部の読みとりに困難が生じる恐れがあります。提示用の資料は可能な限り、テキストに収録するようお願いします。
- ・ ご利用いただく図版、写真については、前記条件により**著作権の処理済みのもの**をご用意ください。
- ・ 原稿は、**E-Mailまたはフロッピー**（テキスト形式）郵送、及びFAXを併用してお送りください（文字化け等確認のため）。また、写真等がある場合は郵送でお送りください。

- ◆原稿期限 **放送日の1か月前までとします。**（原稿の提出が遅れた場合、放送日に間に合いません。ホームページに「原稿遅れ」と掲載いたします。）

◆提出先・連絡先等

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 視聴覚ビル

(財)日本視聴覚教育協会 内

高等教育情報化推進協議会 事務局 担当 佐藤、下川

TEL 03-3591-2186

FAX 03-3595-1297

E-Mail [edit@javea.or.jp](mailto:edit@javea.or.jp)

# 平成14年度エル・ネット「オープンカレッジ」講座講義一覧表(1)

学校名	講座名	回数	講義名(講師名/役職名)
東北大学	テストの話	3	科挙とNAEP(村木 英治/東北大学大学院教授)
			古典的テスト理論と項目反応理論(村木 英治/東北大学大学院教授)
			コンピュータを使ったテストとWebを使ったテスト(村木 英治/東北大学大学院教授)
茨城大学	オリンピックの人間学	3	近代オリンピックとスーパー人間(国枝 タカ子/茨城大学講師/伊藤 公/オリンピック評論家/後藤 忠弘/日本オリンピック・アカデミー広報委員長)
			古代ギリシャ人とスポーツ(国枝 タカ子/茨城大学講師/藤本 復礼/元茨城キリスト教大学学長)
			女性、民族、オリンピック理念の可能性(国枝 タカ子/茨城大学講師)
図書館情報大学	ネットワークライブラリー	2	ハイブリッド図書館(永田 治樹/図書館情報大学教授)
			デジタル図書館(杵本 重雄/図書館情報大学教授)
筑波大学	遺伝子がつくる文明	1	遺伝子がつくる文明ー人類が遺伝子进行操作してつくる文明・遺伝子が人類を操作してつくる文明ー(林 純一/筑波大学教授・生物学類長(兼任))
千葉大学	トライアングル「家庭・学校・地域」子どもを育てよう	1	トライアングル「家庭・学校・地域」子どもを育てよう(明石 要一/千葉大学教授)
東京外国語大学	『人・ことば・文化』	2	ことばが消えるとき(中山 俊秀/東京外国語大学助教授)
			海をこえて伝わったことばたち(菊澤 律子/東京外国語大学助教授)
お茶の水女子大学	天才の栄光と挫折	1	天才の栄光と挫折(藤原 正彦/お茶の水女子大学教授・附属図書館長)
	中高年の社会参加ー生涯学習と地域教育ー	1	中高年の社会参加ー生涯学習と地域教育ー(三輪 建二/お茶の水女子大学教授)
新潟大学	腎臓病Q&A	3	内科が扱う腎疾患のQ&A(下条 文武/新潟大学大学院教授・新潟大学医学部附属病院院長/鈴木 芳樹/新潟大学教授)
			小児科、泌尿器科が扱う腎疾患のQ&A(内山 聖/新潟大学大学院教授/高橋 公太/新潟大学大学院教授)
			腎疾患の基礎研究のQ&A(山本 格/新潟大学大学院教授/追手 巍/新潟大学大学院教授/清水 不二雄/新潟大学教授)
新潟大学	「にいがた連携公開講座」2002ーエル・ネット特別講座ー	1	日本海がはぐくんだ地域と文化(原 直史/新潟大学助教授)
金沢大学	剣道の初心者指導のノウハウ	1	剣道の初心者指導のノウハウ(恵土 孝吉/金沢大学教授)
山梨大学	発達学入門と教育実践学入門	1	発達学入門・教育実践学入門(鳥海 順子/山梨大学教授/林 尚示/山梨大学助教授)
信州大学	ところかわれば生活かわるー環境で違う植物のくらしー	3	ブナ林をはぐくむ雪の働き(島野 光司/信州大学助教授)
			ササが助けるアカエゾマツの更新・人と共に歩んできた里山林(高橋 耕一/信州大学助手/井田 秀行/信州大学助教授)
			草本植物の広がり多様性(佐藤 利幸/信州大学教授)
岐阜大学	霧は語るー霧は地域環境変化のリトマス試験紙ー	1	霧は語る(野元 世紀/岐阜大学教授)
静岡大学	やきもの考古学	2	やきもの考古学Iー日本陶磁史概説ー(柴垣 勇夫/静岡大学教授)
			やきもの考古学IIー古代・中世の陶器とその復元ー(柴垣 勇夫/静岡大学教授)
名古屋大学	無線通信システム入門	3	情報通信システムの仕組みと原理(片山 正昭/名古屋大学教授・工学博士)
			くらしに役立つ通信理論ー携帯電話の効率化をはかるための技術ー(山里 敬也/名古屋大学助教授・工学博士)
			コンピュータネットワークと無線LAN(岡田 啓/名古屋大学助手・工学博士)
兵庫教育大学	世界のことでこんにちはー自動翻訳によるコミュニケーションー	2	文字表示のしくみと自動翻訳サイトを知ろう!(長瀬 久明/兵庫教育大学教授)
	衛星通信による遠隔日本語授業・学習について	1	翻訳サーフィンとメールでコミュニケーションをとろう!(長瀬 久明/兵庫教育大学教授)
神戸大学	生命、生活、環境を脅かすもの:技術の挑戦と反逆する自然	3	BSEの発生過程と行政の対応(高木 道浩/神戸大学助手)
			草を食む牛を育てる草原を守る(津川 兵衛/神戸大学教授)
			生き物に満ちた熱帯林を守る(湯本 貴和/京都大学助教授)
奈良教育大学	”やまと”から知的資源の開放ー日本・世界ー	1	テレビゲーム・まんが・アニメーションへの子どもと親の関わり方(小柳 和喜雄/奈良教育大学助教授)
岡山大学	池田家文庫にみる江戸時代	2	「古文書編」漂流民と朝鮮通信史(倉地 克直/岡山大学教授)
			「絵図編」国絵図の世界(倉地 克直/岡山大学教授)
広島大学	瀬戸内海の文化と環境	3	瀬戸内海の経済社会の変容と環境問題・瀬戸内海の環境問題と生物資源の持続性(戸田 常一/広島大学教授・同附属地域経済システム研究センター長(併任)/松田 治/広島大学教授)
			瀬戸内海における観光振興と環境保全・瀬戸内海における近世景観の形成と文化(カロリン・フンク/広島大学助教授/中山 富廣/広島大学助教授)
			瀬戸内海の環境再生と自然管理・瀬戸内海の文化と環境に関する回顧と展望(座談会)(戸田 常一/広島大学教授・同附属地域経済システム研究センター長(併任)/松田 治/広島大学教授/カロリン・フンク/広島大学助教授/中山 富廣/広島大学助教授/上嶋 英機/独立行政法人産業技術総合研究所中国センター産学官連携コーディネータ・海洋資源環境研究部門 総括研究員)

## 平成14年度エル・ネット「オープンカレッジ」講座講義一覧表（2）

学校名	講座名	回数	講義名（講師名／役職名）
徳島大学	ホノルルマラソンをインターネット中継しよう！	3	暮らしをつくるパソコン・インターネット（吉田 敦也／徳島大学教授）
			技術に向かう楽しさ（吉田 敦也／徳島大学教授）
			インターネットライブ中継システムの構築（吉田 敦也／徳島大学教授）
愛媛大学	街がはぐくむ演劇、演劇がはぐくむ街	3	レビューが生まれた街ー進化する演劇都市、宝塚ーブロードウェイ・ミュージカルの世界とニューヨーク（今泉 志奈子／愛媛大学講師／大野 一之／愛媛大学助教授）
			町民劇場の保存と地域づくり・フランス演劇の舞台をめぐるーパリの劇場とヴィニョンの演劇祭（柳 光子／愛媛大学助教授／岡田 文淑／元愛媛県内子町役場町並・地域振興課長）
長崎大学	まちづくりと大学生涯学習	3	内子座（愛媛県内子町）とグローブ座（ロンドン）・オペラとオペレッタの街、ウィーン（井上 彰／愛媛大学助教授／安藤 秀國／愛媛大学教授）
			地域活性化とその担い手育成のまちづくり（新田 照夫／長崎大学助教授）
琉球大学	琉球と中国・アジアとの交流史	1	転換期の地域社会と住民主体のまちづくり（新田 照夫／長崎大学助教授）
	琉球・中国の文化交流史とその遺産	1	大学生涯学習とまちづくり（新田 照夫／長崎大学助教授）
東京都立保健科学大学	やさしい放射線安全教室	2	「琉球王国と首里城」・「琉球とアジアの交流」（高良 倉吉／琉球大学教授）
			「琉球の詩人と中国」・「漢詩に詠まれた琉球」（上里 賢一／琉球大学教授）
北海道医療大学	職場のメンタルヘルスーはたらく人の“こころ”の健康を考えるー	3	放射線の基礎講座Ⅰ（福士 政広／東京都立保健科学大学教授）
			放射線の基礎講座Ⅱ（福士 政広／東京都立保健科学大学教授）
			職場のメンタルヘルス入門ー勤労者の職場ストレスとメンタルヘルスの現状ー（齋藤 和雄／北海道検診センタークリニック院長）
八戸大学	「文学」と「ことば」の世界	2	職場のメンタルヘルスと“こころ”の病気（上野 武治／北海道大学医療技術短期大学部教授）
			職場のメンタルヘルスと“からだ”の病気（久村 正也／北海道医療大学教授）
仙台大学	スポーツと健康	3	サン・テグジュペリと宮沢賢治ー『星の王子様』と『銀河鉄道の夜』をめぐるー（野村 美佐子／八戸大学助教授）
			複雑表現再考ー接尾語「たち」の流行をめぐるー（小澤 昭夫／八戸大学助教授）
			温熱環境と健康・スポーツ（高橋 弘彦／仙台大学助教授）
常磐大学	ボランティアとミュージアム	3	レクリエーション活動と健康（仲野 隆士／仙台大学助教授）
			バランスと転倒予防（橋本 実／仙台大学助教授）
流通経済大学	インターネット社会では積極的に働きかけて生活しよう	3	水族館のヒミツⅠ（坂井 知志／常磐大学助教授）
			水族館のヒミツⅡ（坂井 知志／常磐大学助教授）
			ボランティアの理念と実際ー災害救援活動を例としてー（吉永 宏／常磐大学教授）
聖学院大学	日本の国際化と日本語教育	3	インターネット社会の生活者は世界を学習する（井川 信子／流通経済大学助教授）
			インターネット社会の企業は現場社員が活躍する（崔 光／流通経済大学助教授）
淑徳大学	「源氏物語」への誘いーその全貌早分かりー	3	インターネット社会の商品やサービスの販売をうまく利用する（中村 博／流通経済大学助教授）
			日本語学と日本語教育学の相補関係ー＜外国語としての日本語＞の力（須山 名保子／聖学院大学教授）
			日本語と日本語教育（内藤 みち／聖学院大学特任講師）
創価大学	21世紀と「心」の教育	3	第2言語としての日本語教育と教師の養成（川口 さち子／聖学院大学助教授）
			光源氏の誕生と形代への愛（宮川 葉子／淑徳大学教授）
			光源氏の栄華と終焉（宮川 葉子／淑徳大学教授）
東京音楽大学	鑑賞のための音楽と楽譜の歴史	3	宇治十帖（宮川 葉子／淑徳大学教授）
			心の世紀と心理学Ⅰーストレス社会をどう生きるかー（鉤 治雄／創価大学教授）
			心の世紀と心理学Ⅱー現代人と心の健康ー（鉤 治雄／創価大学教授）
東京家政学院大学	アメリカの学校で日本語を教える	2	日・米の少年院における矯正教育（佐瀬 一男／創価大学教授・行政教育センター長）
			バロック・演奏を通して聴く、楽譜の変遷（丸山 桂介／東京音楽大学専任講師）
			古典派～ロマン派における楽譜の位置付け・20世紀の音楽（武石 みどり／東京音楽大学専任講師／沼野 雄司／東京音楽大学専任講師）
東洋大学	日本政治の常識と非常識	1	民族音楽の楽譜の変遷～ガムランを例に～楽譜からみえる文化と歴史～まとめにかえて～（丸山 桂介／東京音楽大学専任講師／武石 みどり／東京音楽大学専任講師／沼野 雄司／東京音楽大学専任講師／佐藤 まり子／東京音楽大学専任講師）
			アメリカの学校で日本文化を教える（森 朋子／東京家政学院大学講師）
法政大学	「協調的交渉術」	1	アメリカの学校で日本語を教える（森 朋子／東京家政学院大学講師）
			日本政治の常識と非常識（加藤 秀治郎／東洋大学教授）
武蔵大学	武蔵大学衛星通信利用による公開講座ーマクロ経済と金融ー	1	コンフリクトと問題解決法・協調的交渉術のノウハウ（野沢 聡子／法政大学講師）
			マクロ経済と金融（黒坂 佳央／武蔵大学教授）

## 平成14年度エル・ネット「オープンカレッジ」講座講義一覧表（3）

学校名	講座名	回数	講義名（講師名／役職名）
早稲田大学	エジプト考古学入門	2	エジプト史概観（近藤 二郎／早稲田大学助教授） エジプトの発掘研究（近藤 二郎／早稲田大学助教授）
女子美術大学	絵画・デザイン制作の理論と実際（入門編）	3	絵画 スケッチから制作までの理論と実際／齋藤 研／女子美術大学短期大学部教授 美術コース主任） 版画 作品の構造からエッチング制作までの理論と実際／馬場 章／女子美術大学教授） ヒーリングアートの理論と実際（山野 雅之／女子美術大学教授）
中京女子大学	体ほぐしの運動	1	体ほぐしの運動の教材化（芹澤 康子／中京女子大学助教授）
	人間と文化	1	自己の内なる自然（加藤 博子／中京女子大学助教授）
中部大学	アジア地域の風土と農耕文化－循環型社会を考える－	2	日本の風土と農耕文化－伝統的食文化を考える－（谷山 鉄郎／中部大学教授） アジア地域の食糧自給と地球環境－循環型社会を考える－（谷山 鉄郎／中部大学教授）
平安女学院大学	ボランティア活動と社会参加	1	ボランティア活動と生涯学習（坂口 順治／平安女学院大学・平安女学院大学短期大学部学長）
佛教大学	美に遊び、美に学ぶ－美術鑑賞の新潮流・つくる人との出会い－	1	美に遊び、美に学ぶ－美術鑑賞の新潮流・つくる人との出会い－（大橋 功／佛教大学助教授）
佛教大学	愛宕信仰と火の祭礼（京都の民俗信仰）	1	愛宕信仰と火の祭礼（京都の民俗信仰）（八木 透／佛教大学教授）
岡山商科大学	瀬戸内芸予諸島の風土と地域開発	2	中世期石造物の分布と石材・近世後期の産業開発と地域の変容（土井 作治／岡山商科大学教授／佐藤 昭嗣／岡山商科大学助教授） 果樹園経営者による共同経済活動・生名村の塩田経営の実態（喜田 栄次郎／岡山商科大学教授／岡嶋 隆三／岡山商科大学教授）
松山大学	まちづくり学	3	地方分権化時代における行政とまちづくり（妹尾 克敏／松山大学教授） NPOとまちづくり（上杉 志朗／松山大学助教授） 中心市街地活性化の必要性－地方都市再生－（青野 勝広／松山大学教授）
鳥取環境大学	コンピュータと通信	3	電子メールはなぜ届く（永井 孝幸／鳥取環境大学講師） 携帯電話でなぜ話ができる－電波のふしぎ－（鷲野 翔一／鳥取環境大学教授） 光ファイバの話（秦野 諭示／鳥取環境大学教授）
山梨県立女子短期大学	ジェンダー・フリーの子育て・保育を考える（パート2）	1	個性を育む子育て支援－ジェンダー・フリーの取り組みから（池田 政子／山梨県立女子短期大学教授／乙黒 いく子／認可保育所“チャイルドルームまみい”園長／宮沢 由佳／子育て支援センター“ちびっこはうす”代表）
淑徳短期大学	21世紀生涯学習への招待	2	これからの社会と人生の完成（浅井 経子／淑徳短期大学教授／山本 恒夫／筑波大学名誉教授、大学評価・学位授与機構教授） ともに学ぶ地域と私（浅井 経子／淑徳短期大学教授／山本 恒夫／筑波大学名誉教授、大学評価・学位授与機構教授／渡部 靖之／青森県教育庁生涯学習課社会教育主事／及川 隆視／あおもり県民カレッジ東青学友会副会長）
山野美容芸術短期大学	衛生管理技術－消毒法－	1	衛生管理技術－消毒法－（丹羽 健／山野美容芸術短期大学医学博士）
久留米信愛女学院短期大学	親と子の読み聞かせ～子どもの心に金の鈴を～	1	幼児期は耳の時代～語る喜び、聞く喜び～（高士 與市／久留米信愛女学院短期大学教授・図書館長）
南九州短期大学	パソコンの基礎知識	1	パソコンの基礎知識（片岡 久明／南九州短期大学助教授）
宮崎大学・島根大学	日本文化の源流を探る－日向と出雲の神話と芸能－	5	日向神話にみられる日本文化（山田 利博／宮崎大学助教授） 出雲神話にみられる日本文化（藤岡 大拙／島根県立女子短期大学学長） 出雲の神楽・芸能にみられる日本文化（白石 昭臣／前島根県立国際短期大学教授） 日向の神楽・芸能にみられる日本文化（山口 保明／宮崎県立看護大学学生部長兼教授） 日本文化の源流を探る（パネルディスカッション）（白石 昭臣／前島根県立国際短期大学教授／山田 利博／宮崎大学助教授／山口 保明／宮崎県立看護大学学生部長兼教授／藤岡 大拙／島根県立女子短期大学学長）